

石巻赤十字病院レポート

グループ：6期生 グループB

1. 背景

地域病院がどのように地域医療や災害医療に取り組んでいるのかについて未知であり、地域病院と大学病院の役割の違いについても、理解が不十分であった。私たちの班は医学・生命科学・薬学のメンバーで構成されており、各々が自身の研究内容との関連について情報を整理した上で研修に臨んだ。

2. 目的

- ① 短地域病院における地域医療や災害医療の現状について理解し、課題を発見する
- ② 地域病院の現状から、未来型医療におけるニーズとその解決策について考える
- ③ 実際の現場で学んだことと自身の研究との関連について考察する

3. 研修内容

本研修は2024年8月26日から30日までの5日間、石巻赤十字病院及び南三陸病院にて、以下のスケジュールで行われた。

<スケジュール>					8月26日(月)				8月27日(火)				8月28日(水)				8月29日(木)	8月30日(金)
	佐藤 恭平	何 稜楓	白鳥 礼奈	稲森 瑠聖	佐藤 恭平	何 稜楓	白鳥 礼奈	稲森 瑠聖	佐藤 恭平	何 稜楓	白鳥 礼奈	稲森 瑠聖						
8:30	移動				外科手術 場所：手術室 (中西先生)				高齢者医療 場所：研修室1				震災遺構見学	発表準備				
9:00																		
10:00																		
11:00	10:30～ オンラインセッション、自己紹介 「病院とは」 場所：会議室3								褥瘡ケア 場所：研修室1									
12:00	休憩				休憩				休憩									
13:00	地域医療連携講座 場所：会議室3 (八島係長)				検査部 (尾池課長、田村課長) 病理部 (菅原課長)	臨床心理課 (佐々木係長)		災害医療 原子力棟見学 (新田課長)				南三陸病院 視察	発表 場所：会議室 1.2					
14:00														移動(5～10分)				
15:00	施設見学 ヘリポート：亀山課長 免震構造：中央監視・管財課				移動(5～10分)				移動(5～10分)									
16:00	休憩・移動				薬剤部 (千葉さん)	脳神経内科 (及川先生)		放射線技術課 (鎌田課長)	栄養課 (佐川課長)	放射線技術課 (鎌田課長)								
17:00	夜間救急 場所：救急外来、病棟																	
18:00																		

1日目の講義では、病院の概要から現代の医療が直面している問題、更には地域包括ケアシステムを始めとした、地域医療の機能や役割についても学習した。施設見学では、ドクターカー、ヘリポート、免震構造、更には救急外来を訪れ、大規模災害時の対応や夜間救急についても情報を収集した。2日目の午前には手術室を訪れ、実際の外科手術の現場、更には手術支援ロボット「ダヴィンチ」を始めとする医療機器の観察を行った。午後は2つのグループに分かれ、検査部と薬剤部、臨床心理課と脳神経内科の、各人が興味のある診療科を見学した。3日目は、現場観察と講義を通して、高齢者医療の概要と、褥瘡の予防と治療、更には課題についても学習した。更には原子力棟の見学を行い、東日本大震災時の救護活動だけでなく、災害を通して得た教訓や課題について学習し、災害時の石巻赤十字病院の役割を理解した。更に3日目と同様に、放射線技術課と栄養課の2グループに分かれて、各人が興味のある診療科を見学した。4日目には、東日本大震災で津波被害を受けた大川小学校を訪れ、津波の脅威を目の当たりにし、災害対応の重要性を再認識した。南三陸病院では、訪問診療に同行し、地域に寄り添った医療の現場を体験した。最終日の5日目には、4日目

までの講義や現場観察を踏まえ、地域医療における問題点や課題に関するニーズ・ステートメントを行い、各人のバックグラウンドの観点からそれに対する解決策を考え、10分程度の発表を行った。発表後は、質疑応答を行い、発表の内容について評価を行うと共に各自が理解を深めた。

4. 結果

石巻赤十字病院でのバックキャスト研修を通じて、私たちのグループは災害医療の現場における課題や、認知症患者との意思疎通が困難なケースに触れることができた。特に、災害発生時における石巻赤十字病院の迅速な対応体制と、日頃からの準備がどれほど重要であるかを実感した。ヘリポートや免震構造、原子力災害医療棟といった設備を見学し、大規模災害に備えた設備の充実が、地域の中核病院としての責任を果たすために欠かせない要素であることを理解した。また、今回の研修では、脳波や心拍などの生体情報を活用して認知症患者の意思疎通を支援する技術の可能性についても学ぶ機会を得た。認知症患者との意思疎通は、しばしば医療従事者にとって大きな負担となるが、適切なケアが提供されるためには、患者の感情やニーズを的確に理解する手段が必要である。この技術は、医療現場での負担軽減とともに、患者のQOL（生活の質）向上に大いに貢献できる可能性を秘めており、私たちの研究や今後の医療現場での応用が期待される。さらに、災害時の身元不明者の迅速な身元確認における技術的進展も非常に印象的であった。東日本大震災の経験を踏まえ、歯科情報や胸部X線画像をAIで解析し、効率的に身元を特定する取り組みが進んでいることを学んだ。従来の身元確認手法では時間と労力がかかるため、AI技術の導入は災害対応の迅速化に大いに貢献すると期待される。これらの技術は、災害発生時に限らず、日常的な医療サービスの提供においても重要な役割を果たすと考えられる。

5. 研究や仕事に活かせる点

結果で述べたように、私たちのグループとしては、今回の研修で得られた新しい技術や知見を今後の研究や実務に活かすべきであると考えます。特に、災害医療における効率的なシステム構築や、認知症患者のケアにおいて、AIや生体情報を活用したソリューションの開発は、地域医療における課題解決に繋がると確信している。こうした取り組みは、災害発生時に限らず、日常的な医療の質向上にも大いに貢献するであろう。

6. 改善点・限界点

本研修の限界点としては、2つ挙げられる。1つ目は、5日間という短い期間では地域医療の全てを学習することができず、さらに理解を深めるには個別の調査や訪問が必要となると考えられる点である。2つ目は、ニーズステートメントが現場の実際のニーズとずれる可能性である。複数の施設見学や講義で幅広い情報や視点は得られたが、限られた時間の中では内容の深掘りや、深い議論はできなかったため、現場の声を的確に反映させ、真のニーズを見つけ出すことは困難であったと思われる。

7. 結語

石巻赤十字病院での研修を通じて、私たちのグループは災害医療や地域医療における重要な役割を担う施設の現場に触れる貴重な機会を得た。普段は目にする事の少ない手術室や夜間救急の現場を見学し、さらには免震構造や原子力棟といった災害対応施設の設備も確認したことで、災害医療

の現実を実感した。特に、災害が与える影響の大きさと、そのような緊急時に迅速かつ適切に対応できる医療機関の重要性を深く理解することができた。災害医療に関する新しい知識は、今後の実務や研究において大いに役立つものであり、医療従事者や研究者としての視野を広げる一助となった。また、地域医療の課題についても多くの学びを得た。高齢化が進む地域において、中核病院や一般病院が果たす役割についての新たな視点を持つことができた。特に、医療機関が各職種と連携しながら効率的な医療システムを構築することの重要性を再認識した。この研修を通じて、地域医療ネットワークの重要性を改めて感じ、災害時における医療体制の機能や各部門の連携がどのように行われるのかを学ぶことができた。こうした知識は、災害対応だけでなく、日常的な医療サービスの質を向上させるためにも重要であると理解した。研修を通じて得た知見は、私たちの今後のキャリア形成にも大きな影響を与えるものである。災害医療や地域医療の課題を踏まえ、今後は自分たちの専門分野に限らず、他職種の専門家や新しい技術・知識にも積極的に触れ、より広い視野を持って問題解決に取り組むことが求められると感じた。この経験は、今後の実務や研究活動において、より高い目標を目指すための大きな財産となるであろう。